

6 教師の研修

具体的な内容		自己評価A	関係者評価	関係者評価委員(学校評議員)のコメント	
学校教育目標の具現化に向けて、校内研修の充実に努め、教育実践に励んでいる。	前期	おおむね良好	おおむね良好	今後も、英語教育、プログラミング教育など、これまでになかった内容が始まるに当たり、先生方の研修は重要だと考える。働き方改革が課題となっている現代だが、子どもたちのためにも先生方には、ぜひ授業の指導力を高めてほしい。そして、学校全体及び一人一人にレベルアップしてもらいたい。	
	年度	おおむね良好			
評価指標	実践課題		主な取組	自己評価B	
(12)指導力を高める研修の実施	②学校課題にそった校内研修の充実		・共通課題解決のための研究推進 ・校外研修報告会 ・研究だより「道しるべ」の発行	3	3
(13)授業力の向上	③「分かる」「できる」「定着する」授業づくり		・授業参観記録による授業評価・授業研究会(事前・事後)・授業参観・授業を見合う会 ・TT授業の推進 ・専科による授業	3	3

学校の改善策

【前期(→年度)】

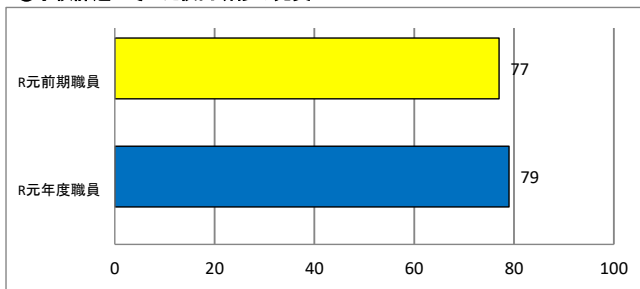
- ・体育科の授業づくりを中心にした研究を更に継続し、指導力の向上に努める。
- ・実技研修会を実施して体育科や図工科の実技指導の方法を知り、実践力を高める。
- ・各研修会を通して共通理解してきた指導法や支援の手立てを各学級で実践し、研究授業や実践 報告などで確かめ合う。

【年度(→次年度)】

- ・授業研究会に加え、授業を見合う会を行うことで、指導技術の継承と授業力向上を図る。
- ・各教科で身に付けさせる資質・能力や見方・考え方を全体で確認し、主体的で対話的な深い学びにつながる課題解決型の授業づくりに取り組む。
- ・児童による授業評価や教職員によるアンケートなどから課題を明確にし、それをもとに来年度の共通実践事項を精選することで、全校体制での研究推進を強化する。

<(12)に関するデータ>

②学校課題にそった校内研修の充実

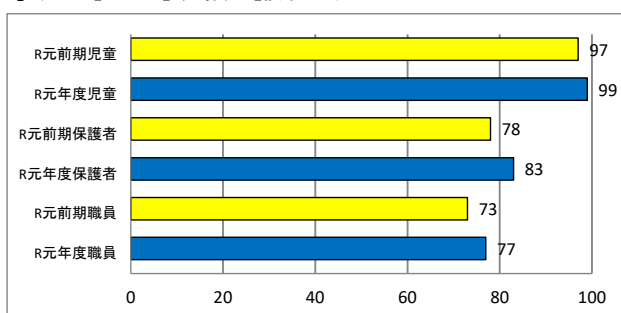


- 授業研究会・・・年間計7回の研究授業を実施。研究協議会には、ワークショップ形式を取り入れ、全職員がよりよい授業のために意見を出し合った。どの研究授業でもたくさんの成果が見られた。
- 事前検討会・・・目指す子どもの姿に迫れるように意見を出し合った。また、学団を中心に模擬授業を実施し、発問や板書、学習シートなどの吟味を行った。
- 研修報告会・・・教育課程説明会などでの研修事項を全体研修会で報告し合い、共通理解を図った。
- 年次研修会・・・初任研では全教員が協力し、研修を充実させた。
- 実技研修会・・・今年度新たに水泳、図画工作の研修会を実施できた。また、新学習指導要領実施に備え、プログラミング教育に関する研修会を実施した。
- 道徳研修会・・・兵庫県から著名な指導者をお招きし、道徳科について

体育科を中心に理科、学級活動、特別支援教育など、授業力向上を目指して、年度初めに研究計画で共通理解したことを、研究授業で実際に参観し合い、確認したことにより、全職員が具体的な指導方法や取組・手順などをイメージして授業づくりをすることができた。また、研究授業の前に学団部を中心に模擬授業を行い、授業を進める上での迷いや悩みを共有したり解決策を考えたりしたこと、発問や板書・学習シートなどの吟味を行ったことが研究授業に生かされた。事後の協議会をワークショップ形式にしたことにより、視点に沿って全員が考えを述べることができた。来年度の新学習指導要領実施や具体的な実技指導の向上に向けて、研修会を実施できたのも大きな成果となった。

<(13)に関するデータ>

③「分かる」「できる」「定着する」授業づくり



(保護者アンケート記述より)

- ・授業にあまりついていけない。勉強で悩む姿をよく見る。
- ・授業を参観し、個々の自由な意見をしっかりと聞き、向き合い、よい



研究授業 4年生体育



研究授業 6年生理科

どの項目も、前期に比べて数値の上昇がうかがえる。日常の学習指導の成果が表れ、児童が自信をもってきていると考える。特に、児童の自己評価が高いが、「勉強が分かる・できる・定着する」ことが、自己有用感につながり、子どもにとって「楽しく毎日が待ち遠しい学校」の大きな要因となる。

保護者や職員の数値も、前期に比べてよい評価となっているが、保護者の感想からは、個別指導、よりきめ細かな指導に対する要望もうかがえる。そのような時間を確保するとともに、研究教科である体育の指導を中心にしながらも、新しい学習指導要領の趣旨に基づいたよりよい指導の在り方、授業を見合う会の工夫等による指導力向上の方策も検討していきたい。

自己評価A及び外部評価の評価区分

○ きわめて良好
○ 良好
○ おおむね良好
○ やや不十分
○ 努力を要する

自己評価Bの評価基準

5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対して91%以上達成・前年度比108%以上
4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対して80~90%達成・前年度比103~107%
3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対して60~79%達成・前年度比98~102%
2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対して50~59%達成・前年度比93~97%
1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対して49%以下の達成・前年度比92%以下